View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE

修士（2018 年度）

「公共領域」としてのコミュニティサイトに関する考察
――「豆瓣網」を例として――

陳　奕蓁

本論文では、「ネット・コミュニティ」の実態を明らかにすること、また「ネット・コミュニティ」が「公共領域」としての役割を担いうるのか、という二点を明らかにすることを目的に議論を進めてきた。まずインターネット技術の源流について検討し、本論文で用いる「ネット・コミュニティ」と「公共領域」の概念を定めた。そして、「豆瓣網」を例に挙げ、ネット・コミュニティの実態とユーザーの言動を考察した。筆者は、さまざまな SNS を利用している中、ユーザーの間に奇妙な言動やつながりを生じていることに気が付き、それに対して興味を抱いた。「豆瓣網」は、そうした特異性が顕著に現れている。以下で、本研究の概要を紹介する。

第一章ではインターネット技術の発祥からインターネット空間の形成と変容、そして今日の情報ネットワーク社会に発展していく過程を明らかにした。情報ネットワーク社会ではシステムレベルと生活世界レベルで人々が直面するジレンマ、つまり人々の自律性がインターネットの拡大とともに喪失されつつあるといわれる。その結果から、人々がネット社会において様々な「自由」をいかにコントロールするのかという疑問が浮上した。

第二章では、先行研究のレビューから本論文で用いる「ネット・コミュニティ」の定義を明確にした。つまり、電子ネットワークの接続に基づき参入する空間全体を指す場合は「インターネット空間」とよび、そのような空間においてニュースサイト、SNS サイトなど様々なサービスの利用によってさらに形成される空間を「ネット・コミュニティ」とよぶ。情報化社会の今日では、インターネット社会と現実社会の区分が生まれたと同時に、両者の境界は曖昧となり互いに浸透しあっている。それゆえ、今日のネット上のコミュニティを単に想像＝仮想することによって形成されると考えてはならない。なお、本章ではコミュニティ研究を整理して、これまでのネット・コミュニティの実態も明らかにした。

第三章では、「情報公共圏」の発想を用い、その源流であるハーバーマスの「市民的公共圏」と「現代的公共圏」の特性を平等性、公開性、自律性という三つの基準で整理してきた。しかしながら、これまでの公共圏研究は民主主義・市民社会、いわゆる「西側」の立場に基づいた論争であり、そのまま「豆瓣網」の研究に応用するのは不適切だと考えた。そこで平等性、公開性、自律性三つの原理に基づいて再び「公共領域」の概念を検討した上、四章へと展開してゆく。

第四章では、「豆瓣網」というユーザー参加型のコミュニティサイトを分析対象として、特に「グループ」という機能を取り上げてメンバーの情報活動について分析した。そこで得られたのは、以下のような知見である。

まず、メンバーのグループに対する参加意識は強いことである。例えば「日本に留学する」ということに関連したグループでは、留学の前段階―中段階―後段階というプロセスごとに投稿の内容が集中していた。このような強い趣味・関心指向性がネット・コミュニティを形づくる重要な動機になると思われる。次に、「グループの紹介」によって投稿の方向性については明確に規定されてはいるものの、トピックの言及範囲は広いということである。「トピック」紹介

と「コメントする内容」の分析によってメンバーの関心はさまざまである。しかも単なるコミュニケーションにとどまらず、返信数が多いいくつかのトピックではメンバーたちが非常に掘り下げて議論していた。そして、メンバーの投稿活動の中では、グループ内にオピニオン・リーダーが存在していた。

数多くの投稿の中で、まったく返信されていないトピックがあった一方、数百数千以上もコメントされたトピックも存在していた。同時に返信数が多いトピックの紹介を分析したところ、情報優位な人がいることが確認できた。また、情報優位は固定化されてなく、投稿の量と質、いわゆる知識によって決定されていることが明らかになった。

そして、テキストマイニングによって得られた発見と疑問点を踏まえ、「ネット・コミュニティ」と「公共領域」の検討を加えて、オピニオン・リーダーと一般の利用者にデプスインタビューを行った。インタビューの項目では、「ネット・コミュニティについて」、「二重社会について」、そして「公共領域について」、三つの側面に絞った。それぞれについて質問し、実際の利用者たちの話を分析した。結果としては、まずネット・コミュニティの存在を確認でき、またそれが発揮する「公共領域」の機能が明らかになった。また、インターネットが普及すればするほど、インターネット社会と現実社会は互いに重なり、人は「二重社会」で生きているという感覚を持ち得るのである。グループの利用によって、インターネット社会の見知らぬ人とのつながりが生まれ、そのつながりが現実社会にも移行していることを確認できた。

さらに、今回の調査では、協力者をオピニオン・リーダーと一般利用者に分け、両者の違いを明らかにすることができた。オピニオン・リーダーたちは、より自分の考えを持っており、相対的に問題の核心にせまる能力が高いようである。そして、オピニオンリーダーたち全員が高い学歴を持っていることも、「豆瓣網ユーザーは高学歴」という印象と合致し、こうしたユーザーがいるからこそ、豆瓣網はさまざまなコミュニティの中で独特な地位を占めているのである。

一方で、本論文にはいくつかの課題がある。コミュニティと公共圏は社会学の領域において非常に重要な概念で、先行研究も多く存在しており、概念を網羅的に把握することはできなかった。本論文はこのような課題を残してはいるが、当該領域における研究の今後の発展に寄与することができれば幸いである。